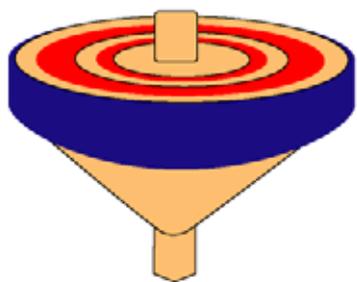
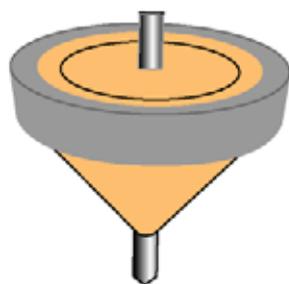


# 独楽つくし

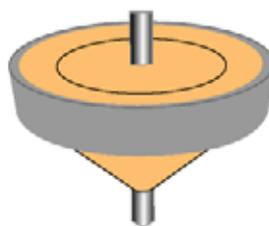
上州の紅コマ



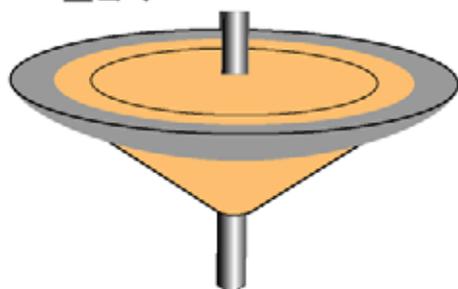
関東のケシコマ



鉄輪コマ



皿コマ

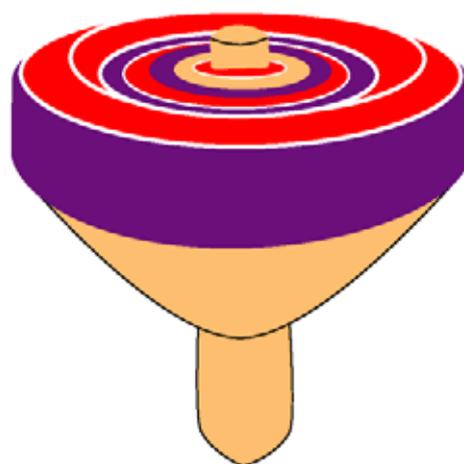


マジックコマ



回っている間は  
倒れても再び立  
ち上がる。

相州の大山コマ

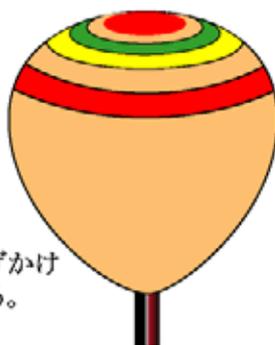


唐津こま

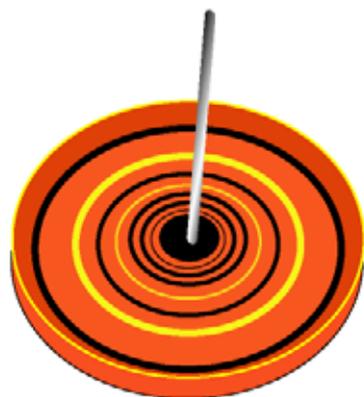


鉄芯を向けて投げかけ  
相手のコマを割る。

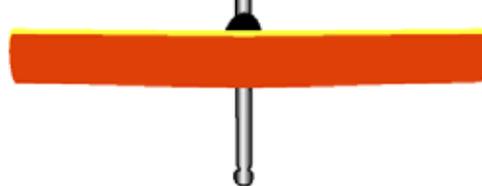
佐世保こま



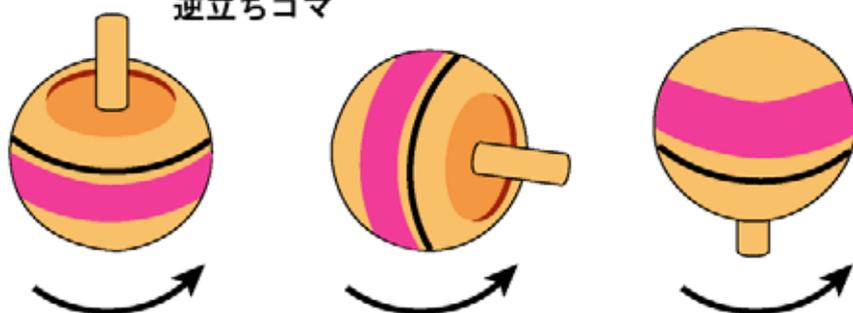
名古屋の地球コマ



江戸の曲芸コマ



逆立ちコマ



5枚はね



# 唐津独楽

佐賀県唐津市

唐津市周辺でとれるマテバ椎を材料に作られる独楽は、オーソドックスな形の皿ゴマやラッキョウの形をした坊主ゴマ、手で回すひねりゴマなど5種類あります。赤を基調に青、黄、緑、金などの色彩が鮮やかです。



# 博多独楽

福岡県春日市

17世紀の後半に作られ始めた博多独楽は、心棒に鉄心を打ち込んだ日本で初めての独楽です。ぶれが少なく、よく回るので曲芸が可能になり、各地の独楽芸の発祥ともなりました。曲芸用の独楽の製作、伝承とともに、回して遊ぶ独楽も作られています。



# 八女和ごま

福岡県八女市

八女和ごまは、明治時代はソロバン玉の形をしていました。握りやすいように次第に上面がくぼんで今のような形になりました。その名残がくぼみの中央にあるヘソです。現在は、ヘソのないものやひねりごまもあります。



# 肥後独楽

熊本県熊本市

「赤、黒、緑、黄色」の色づけをしますが、胴体の外側は白い木地のままにしておくのが特徴です。トンボやヒネリ、坊主など13種類ある中でも、紐を使って空中で回すチョンガケゴマが肥後ごまの代表。チョンガケは加藤清正公が伝えたといわれています。



元祖  
九州の  
独楽

# 佐世保独楽

長崎県佐世保市

代表的なのは、インドから中国を経て長崎へ伝わったとされるラッキョウ型の独楽です。回転時間が長いのが特徴で、「息長勝問勝競べ」の掛け声で相手と打ち合うので、「けんか独楽」とも呼ばれます。



# でごま

鹿児島県鹿児島市

砲弾形の木製の独楽で、台独楽とも書きます。上部の平らなところには赤、黄、緑の輪模様があり、溝に紐を巻きつけて投げ、回したり、ぶつけあったりして遊びました。昔は照国神社の初市などで売られていましたが、今はもう見かけません。



# 神代独楽

宮崎県佐土原町

真竹の筒に檜の円盤をはめ込み、竹の心棒を通した独楽。胴体にうなり窓という仕掛けがあって、回すとブーンという音がします。江戸時代、佐土原は島津領だったので島津の紋入りで、参勤交代の際の土産物にも重宝されています。



## 博多独楽以後

17世紀後半のこの画期的な博多独楽の誕生以後、元禄時代(西暦1700年前後)には松井源水という人が江戸の盛り場で集客目的に曲芸独楽を披露したとの記録があります。彼は独楽曲芸師の元祖であると同時に有名な日本最初の大道芸人ということになっています。この後、独楽遊びは各地に広がっていきます。加工がしやすい木が豊富という日本の事情もあって多様な独楽が生まれました。幕末時の初代駐日英国公使、オールコックの日本滞在記「大君の都」のなかで「せっかちに言えば、日本人は独楽回しばかりだということになろう。他のどの国民よりもこま回しに大変すぐれている」と述べています。当時西洋人にとって日本といえば独楽という連想図式が成り立っていたようです。明治時代になって以後も、西洋から新しいタイプのごまの影響も受け、さらにさまざまな独楽が生まれ、そして現在のコマブームへと、独楽遊びの伝統は脈々と受け継がれています。



(株)新井商店 2001年12月製作



鉄輪こま(今治)



皿こま(関西)



地球こま(名古屋)



大山こま(相模)



曲芸こま(江戸)



けしこま(関東)

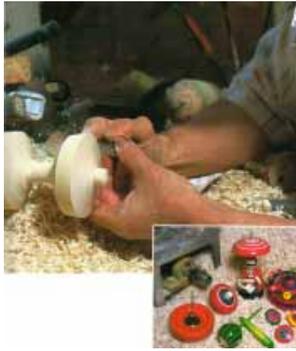


紅こま(上州)



追っかけこま(東北)

# 木ゴマの製作と材料



独楽の材料はよく乾燥した広葉樹。電動ロクロを回して、刃物で形を作ります。心棒を上手にはめ込めれば一人前ですが、これをマスターするにはかなりの修行が必要です。

## ミズキ



## マテバシイ



## イタヤカエデ



杉や檜などの針葉樹にくらべて広葉樹は木質が硬く密度が高いので木肌が滑らかできれいです。しかしその分加工が難しく、建築、家材よりも家具材としての利用が中心となります。

## マテバシイ



マテバシイは九州の樹木で佐世保コマや唐津コマの原料です。木肌は一見ラワン材に似ています。

# 押し絵羽子板の製作と材料



羽子板を作るには工作の技術ばかりではなく、広く深いデザインの知識や技術も必要です。東京浅草の羽子板市などで売られています。

## ホオノキ



## 出典(写真抜粋)

### 木の材料

「庭木・街の木」  
「山の樹木」

2冊とも小学館ポケットガイド

### 製作写真

「東京の職人」淡文社



羽子板の羽根の芯はこのムクロジの実です。かなり硬い実にドリルで穴を開け羽根を挿してつくります。この硬さが、ピッシとしたメリハリのする音のもとです。

## ムクロジ

## キリ

